

古河電工

古河電気工業株式会社

2021年3月期 第3四半期決算説明会

2021年2月4日

概要

2021年3月期 第3四半期決算説明会（電話会議）

2021年2月4日実施

[登壇者]

1名

取締役 兼 執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長

福永 彰宏（以下、福永）

- Q3累計実績は、Q2までのコロナ影響により減収減益
- Q3単期実績は、自動車部品を中心とした電装エレクトロニクスセグメントの想定を上回る回復により営業黒字に転換
- 通期見通しは、売上、営業利益、経常利益を上方修正
経常利益は前回の赤字予想から黒字化を見込む

福永：福永でございます。本日は大変お忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。それでは、2020年度第3四半期決算について、私よりご説明させていただきます。

まず3ページでございます。決算のポイントとしまして、Q3までの累計実績、こちらはQ2までのコロナ影響により前年比で減収減益という結果になっております。一方で、Q3単期の実績を見ますと、自動車部品を中心とした電装エレクトロニクスセグメントの想定を上回る回復により、営業黒字に転換しております。

通期見通しは、こうした3Qまでの状況を踏まえまして、売上、営業利益、経常利益を上方修正。経常利益は前回の赤字予想から黒字化を見込んでおります。

2020年度Q3実績—要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19Q3累計		FY20Q3累計		前年比		主な増減内訳 (Q3累計前年比)
	a	a'	b	b'	b-a	b'-a'	
売上高	6,762	2,210	5,630	2,086	▲ 1,131	▲ 124	▲1,131億円(▲17%) 5ページ参照
営業利益	153	45	▲7	26	▲ 160	▲ 19	▲160億円 6ページ参照
(率)	2.3%	2.0%	▲ 0.1%	1.3%	▲ 2.4	▲ 0.8	
持分法投資損益	13	15	▲ 5	6	▲ 18	▲ 9	
為替損益	▲ 4	4	▲ 9	▲ 5	▲ 5	▲ 9	
経常利益	139	55	▲38	22	▲ 176	▲ 33	▲176億円
(率)	2.1%	2.5%	▲ 0.7%	1.0%	▲ 2.7	▲ 1.4	
特別損益	11	▲ 10	104	▲ 11	+93	▲ 1	・特別利益：+182 (49→231)
法人税等	67	25	46	13	▲ 21	▲ 12	・特別損失：▲90 (▲38→▲127)
非支配株主に帰属する 当期純利益	9	7	16	10	+7	+3	
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	14	5	▲11	▲ 70	▲ 25	▲70億円(▲94%)
(率)	1.1%	0.6%	0.1%	▲ 0.5%	▲ 1.0	▲ 1.1	
銅建値 平均	689	683	714	792			
為替 平均	109	109	106	104			

特別利益：
・固定資産処分益 (221：Q1)

特別損失：
・製品補償引当金繰入額 (▲48：Q1)
・事業譲渡損 (▲37：Q1)
・新型コロナウイルス感染症による損失 (▲14：Q2) *
* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の海外子会社が稼働停止した期間に発生した固定費を特別損失に計上
・持分変動損失 (太物巻線) (▲5：Q3)

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

4

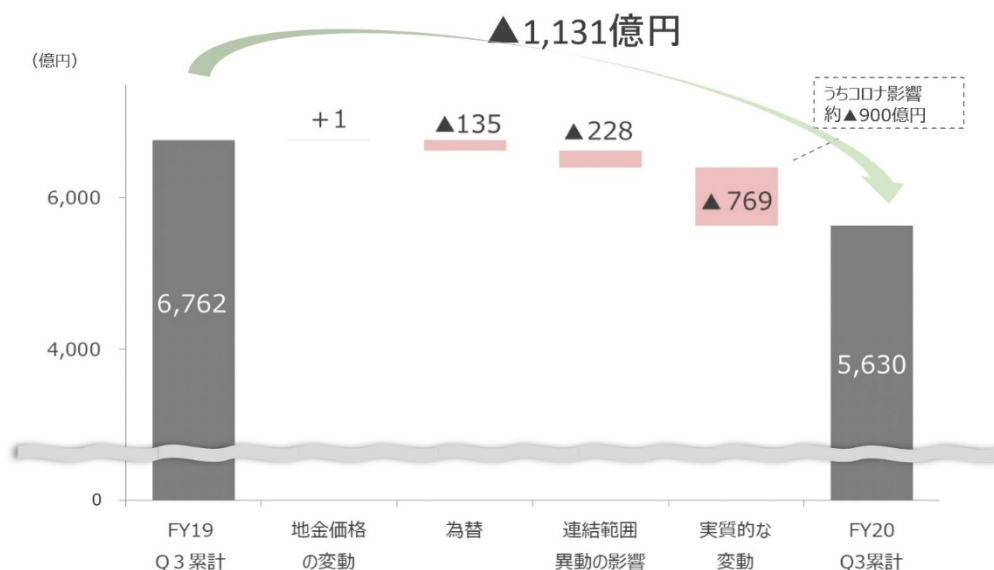
続いて4ページ。第3クォーターまでの実績のP/Lでございます。

第3クォーターまでの累計の売上高は5,630億円。営業利益、マイナス7億円。経常利益、マイナス38億円。親会社株主に帰属する当期純利益、プラス5億円という結果になりました。

いずれも先ほど申し上げましたとおり、売上を含めまして、各段階損益、前年に比べて減収減益となっております。

一方で、bダッシュのところ。10月から12月までの3クォーターの短期の実績。こちらは営業利益、26億円、経常利益が22億円のプラスと、プラスに転じているところでございます。

売上高の増減要因（前年比）



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

5

続いて 5 ページ。売上高の増減でございます。

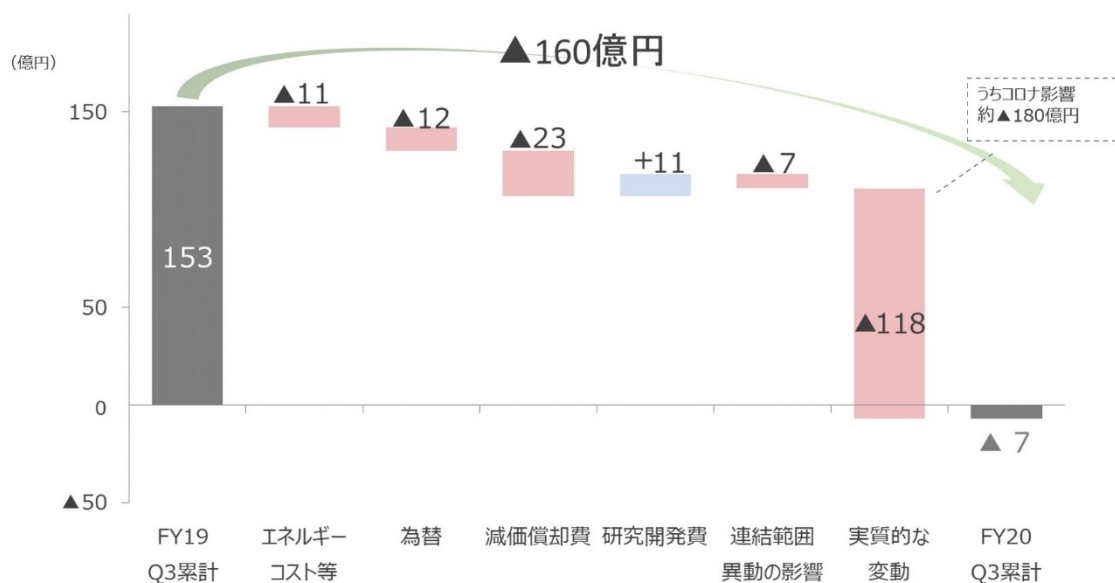
前年比でマイナス 1,131 億円という結果でございます。主なものは為替の影響、マイナス 135 億円です。こちらはブラジルのリアル。こちらもブラジル拠点の現地通貨を円換算にする影響でマイナス 80 億円強。あと、US ドルで 25 億円、中国元で 14 億円程度のマイナスでございます。

連結範囲につきましては、この金額、銅管事業譲渡、太物巻線事業譲渡の影響でございます。

そして、実質変動、マイナス 769 億円でございますが、このうちコロナ影響はマイナス 900 億円となっておりますので、それを除くとプラス 131 億円となります。これは北米のファイバ・ケーブル、デジタルコヒーレント、国内の再生エネルギー・地中線の電力ケーブル、データセンタ向けの機能製品の改善がございます。

なお、コロナ影響は 3Q 単期ではマイナス 100 億円ということで、2Q までに比べるとかなり金額は小さくなってきております。

営業利益の増減要因（前年比）



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

6

続いて 6 ページ。営業利益の増減でございます。

前年同比マイナス 160 億円でございます。為替に関しましては、売上と同様、ブラジルレアルの影響、円換算の影響でマイナス 7 億円、ここに占めております。減価償却に関しましては、情報通信、自動車部品、電力ケーブル、こちらに投資を進めております。その関係での償却費の増加です。

研究開発費につきましては、将来の技術を作り、市場を作るという、将来に向けての先端技術に対する投資は従来通り。ただし、リモート活用による効率化であったり、コロナ禍での社会状況の変化に伴う優先順位の見直しを行っておりまして、11 億円、プラス方向に働いております。

連結範囲は、先ほどの売上の関係と同じです。

実質変動、マイナス 118 億円ですけれども、このうちコロナ影響はマイナス 180 億円となっております。これを除くとプラス 62 億円となります。これは売上要因と同じく、北米のファイバ・ケーブルであったり、デジタルコヒーレントであったり、電力ケーブル、データセンタ向けの機能製品がございますが、これに加えまして原価低減、固定費圧縮による損益分岐点の改善効果が織り込まれているということでございます。

なお、コロナ影響は売上と同じく、3Q 単期で見ますとマイナス 20 億円ということで、影響は小さくなってきておる状況でございます。

2020年度通期予想見直し

- 営業利益は、主に電装エレクトロニクスセグメントの想定を上回る回復により上方修正
- 経常利益は、営業利益の増加により上方修正
- 法人税等や非支配株主に帰属する当期純利益の発生等を勘案し、親会社株主に帰属する当期純利益は据え置き

(単位：億円、円/kg、円/米/リ)

	FY19 実績	*FY20 前回予想	FY20 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	9,144	7,800	8,100	▲ 1,044	+300
営業利益	236	50	60	▲ 176	+10
(率)	2.6%	0.6%	0.7%	▲ 1.8	+0.1
持分法投資損益	25	—	—	—	—
為替損益	▲ 10	—	—	—	—
経常利益	228	▲ 5	5	▲ 223	+10
(率)	2.5%	▲ 0.1%	0.1%	▲ 2.4	+0.1
特別損益	80	104	120	+40	+16
法人税等	118	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	14	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	30	30	▲ 146	—
(率)	1.9%	0.4%	0.4%	▲ 1.6	—
銅建値 平均	682	697	720	(Q4前提：740)	
為替 平均	109	106	106	(Q4前提：105)	

*2020/11/5公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

7

続いて、2020年度通期予想の見直しでございます。

営業利益、経常利益につきましては、冒頭でもお話しした内容と同じでございます。あと親会社に帰属する当期純利益に関しましては据え置いております。これは、法人税等や非支配株主に帰属する当期純利益の発生等を勘案しまして据え置きとしているものでございます。

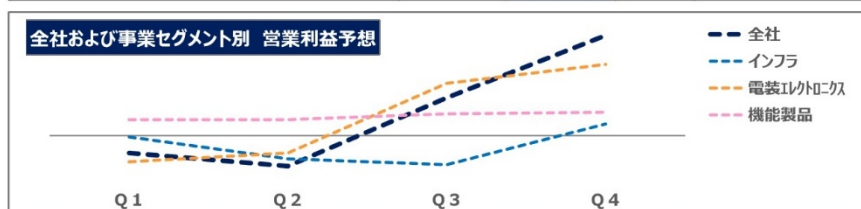
非支配株主の部分に関しましては、古河電池であったり、東京特殊電線であったり、どちらも非支配株主、相手資本の部分というところ。こちらの部分が当期利益の前で減算されている。その影響が含まれているとご認識ください。

2020年度通期営業利益予想について

■ 前回予想に対し、電装エレクトロニクスおよび機能製品を上方修正も、インフラセグメントは下方修正

(単位：億円)

セグメント	サブセグメント	前回予想	今回予想	差異	主な修正要因（事業・製品）	赤：減益要因 青：増益要因
インフラ	情報通信ソリューション	5	▲5	▲10	・特殊ファイバ：医療用、産業用等向け ・アンブ用デバイス製品 ・国内ネットワーク関連製品	
	エネルギーインフラ	▲15	▲25	▲10	・国内建設・電販市場、鉄道関連市場向け製品 ・電力（中国）	
電装エレクトロニクス	自動車部品・電池	30	50	+20	・ワイヤハーネス（北米・中国） ・電池	
	電装エレクトロニクス材料	0	5	+5	・車載関連製品	
機能製品		50	55	+5	・自動車・エレクトロニクス関連の特殊線	



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

8

続いて 8 ページ。通期営業利益の見直しに関しましての、セグメント別の情報でございます。

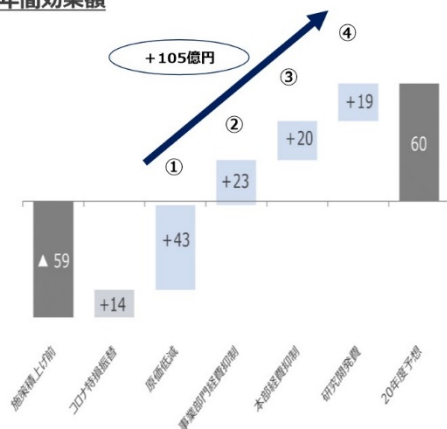
インフラがマイナス。一方で電装エレクトロニクス、機能製品に関しましてプラスといった状況でございます。詳細に関しましては、個別のセグメントの情報のごとくご説明させていただきます。

緊急経営対策の進捗状況

■ コロナ影響による収益悪化予想をふまえ、緊急経営対策チームのもと対応中

・原価低減、経費抑制等に関わる追加施策の実行は、計画通りに進捗

年間効果額



	Q3累計効果実績 (億円)	主な追加施策
① 原価低減	+27	・設備投資見直しによる償却費減少 ・製造関連コストの節減
② 事業部門経費抑制	+24	・営業費用（出張旅費、交際費等）の抑制 ・社内イベントの中止・延期
③ 本部経費抑制	+16	・営業費用（出張旅費、交際費等）の抑制
④ 研究開発費	+12	・シミュレーション解析活用や、オンライン会議活用による業務効率化
合計	+79	

続いて、緊急経営対策の進捗状況でございます。こちらに関しましては、従来からお示しているものでございますが、Q3までの累計の効果、79億円という結果となっております。1クォーターの段階では、年間90億円の効果を見込んでおりました。2クォーターの段階では、さらに上積み100億円といたしまして、現時点では105億円の効果を見込んでいるところ。現時点では計画通り、あるいは計画を上回る状況で着実に進捗している状況でございます。

セグメント別売上高および営業利益

(単位：億円)

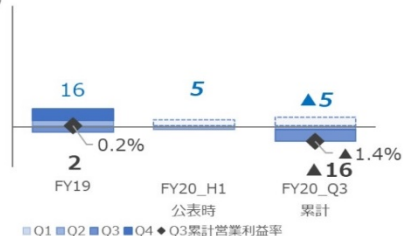
	Q3累計			通期					
	FY19 実績	FY20 実績	前年比	FY19 実績	*FY20 前回予想	FY20 予想	前年比	前回予想比	
売上高	インフラ	2,041	1,853	▲ 188	2,809	2,550	2,550	▲ 259	0
	情報通信ソリューション	1,217	1,134	▲ 83	1,664	1,550	1,550	▲ 114	0
	エネルギーインフラ	823	719	▲ 104	1,145	1,000	1,000	▲ 145	0
	電装エレクトロニクス	3,788	2,901	▲ 887	5,093	4,150	4,400	▲ 693	+250
	自動車部品・電池	1,854	1,562	▲ 292	2,576	2,450	2,500	▲ 76	+50
	電装エレクトロニクス材料	1,934	1,338	▲ 595	2,517	1,700	1,900	▲ 617	+200
	機能製品	879	838	▲ 41	1,159	1,050	1,100	▲ 59	+50
	サービス・開発等	388	293	▲ 95	503	450	450	▲ 53	0
	連結消去	▲ 333	▲ 254	+79	▲ 420	▲ 400	▲ 400	+20	0
	連結合計	6,762	5,630	▲ 1,131	9,144	7,800	8,100	▲ 1,044	+300
営業利益	インフラ	3	▲ 37	▲ 40	17	▲ 10	▲ 30	▲ 47	▲ 20
	情報通信ソリューション	2	▲ 16	▲ 18	16	5	▲ 5	▲ 21	▲ 10
	エネルギーインフラ	1	▲ 21	▲ 22	1	▲ 15	▲ 25	▲ 26	▲ 10
	電装エレクトロニクス	100	6	▲ 94	148	30	55	▲ 93	+25
	自動車部品・電池	74	4	▲ 70	109	30	50	▲ 59	+20
	電装エレクトロニクス材料	26	2	▲ 24	39	0	5	▲ 34	+5
	機能製品	54	37	▲ 17	75	50	55	▲ 20	+5
	サービス・開発等	▲ 3	▲ 14	▲ 12	▲ 3	▲ 20	▲ 20	▲ 17	0
	連結消去	▲ 1	1	+2	▲ 1	0	0	+1	0
	連結合計	153	▲ 7	▲ 160	236	50	60	▲ 176	+10

*2020/11/5公表

次、11 ページはセグメント別の売上、営業利益の内訳でございます。

こちらも個別の事業については、次ページ以降でご説明します。

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

売上高
(億円)営業利益・営業利益率
(億円)青：通期
黒：Q3累計

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

■Q3累計実績 売上高 前年同期比

▲83億円

- ・ファイバ・ケーブルは為替影響（主にブラジルレアル安）の影響を除くと実質増収
- ・国内ネットワーク関連製品、産業用レーザーはコロナ影響もあり減収

営業利益 前年同期比

▲18億円

- (+) 北米の光ファイバ・ケーブル需要は堅調
- (+) デジタルコヒーレント関連製品は供給能力向上
- (-) 光ファイバ・ケーブルの厳しい競争環境は継続
- (-) コロナ影響による顧客の設備投資抑制により、国内ネットワーク関連製品、産業用レーザー、特殊ファイバ（医療用、産業用等向け）が減収
- (-) 償却費の増加
- (-) 南米FTTHソリューション事業は堅調。現地通貨ベースでは増収も、為替影響により減益

■通期見通し 売上高 H1公表時点比

変更なし

営業利益 H1公表時点比

▲10億円

- (-) 特殊ファイバの減収
- (-) 国内ネットワーク関連製品のプロジェクト延伸
- (-) コロナ影響による新規工事停滞で、アンブ用デバイス製品は需要減

※ デジタルコヒーレント関連製品、南米FTTHソリューション事業は堅調維持

13

13 ページをご覧ください。こちらが、情報通信ソリューションの状況でございます。

Q3 までの累計の実績で、売上が前年比でマイナス 83 億円。営業利益はマイナス 18 億円という結果になっております。売上の全体感という意味合いですと、ファイバ・ケーブルは為替影響、こちらブラジルレアル安の影響、80 億円強と先ほど申し上げましたが、この影響を除くと実質増収となっております。

加えて、コロナ影響による国内工事の遅れ、設備投資抑制の影響で、国内のネットワーク関連製品、産業用レーザーは引き続き苦戦している状況でございます。

営業利益につきましては、北米の光ファイバ・ケーブルの需要は堅調、昨年同様に戻っている状況。デジタルコヒーレント関連も伸びております。しかしながら、光ファイバ・ケーブルについては、特にアジアでは価格下落を含めて厳しい状況です。また、国内ネットワーク、産業用レーザーについては、売上でご説明した状況ですが、加えて医療用、産業用途向けの、主に非通信向けとなるんですが、この特殊ファイバもコロナ影響により需要が落ちているところでのマイナス影響が、3Q 以降出てきているところでございます。

また、償却費の増加。ウォーターフォールのページでもご説明しました、ブラジルレアル安の影響がございまして。

通期に関しましては、営業利益でマイナス 10 億円、下方修正となっております。ここに三つの要因を挙げておりますが、それぞれほぼ 3 分の 1 ずつの影響が出ております。一番下に、コロナ影響による新規工事停滞によるアンブ用デバイス製品が需要減となっておりますが、これは通信システムの施設工事、北米になります。こちらがコロナ関係でやはり停滞していることで、アンブ需要が止まっている影響が少し出てきている状況でございます。

- 北米光ファイバ・ケーブル需要環境は堅調に推移。当社の出荷数量も増加
(20年度Q3累計 北米向け光ファイバ数量前年比：約15%増)
- 11月、12月の当社の北米光ケーブル生産は、季節要因に加えコロナ影響を受けたものの1月は改善傾向。引き続き生産数量アップとコスト低減を進めていく
- 南米のFTTHソリューション製品の工場稼働開始 (2021年1月)

北米光ケーブル生産能力および出荷数量推移



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

14

続いて 14 ページ。こちらは、情報通信ソリューションの補足情報でございます。

従来からお示している、北米光ファイバ・ケーブルの生産能力と出荷数量の推移です。11 月後半から 12 月にかけてのホリデーシーズンの影響、また一部コロナ影響がございましたが、1 月は既に実績が出ております。10 月水準に戻ってきているということでございます。

2 月以降も、この水準をさらに改善を進めていくという計画です。Q2 時の計画通りに進んでいるとご認識ください。

また、1 点、トピックスとして、需要堅調な南米 FTTH ソリューション製品の工場がこの 1 月に稼働開始いたしました。こちらは、ブラジルに拠点がございます Furukawa Electric LatAm、こういった差別化商品によって来年度も売上を伸ばしていく計画でございます。

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

売上高
(億円)

■ Q3累計実績 売上高 前年同期比

▲104億円

営業利益 前年同期比

▲22億円

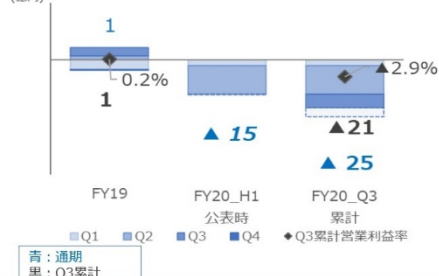
(+) 国内再生可能エネルギー関連、国内外地中線案件の進捗は順調

(-) コロナ影響による国内建設・電販市場、鉄道関連市場向け製品の減収および中国子会社で顧客工事計画延期等で売上繰延べ

(-) 新規材料採用に伴う評価費用等の一時的増加

営業利益・営業利益率

(億円)



■ 通期見通し 売上高 H1公表時点比

変更なし

営業利益 H1公表時点比

▲10億円

(-) コロナ影響による国内建設・電販、鉄道関連市場等は想定以上の回復遅れ

(-) 中国子会社ではコロナ影響による工事事案件の延期

※ 引き続き国内再生エネ関連、国内外地中線案件の進捗は概ね順調も、コロナ影響により一部の案件で遅延あり

青：通期
黒：Q3累計

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

15

次、15 ページでございます。エネルギーインフラです。

前年比で売上がマイナス 104 億円、営業利益はマイナス 22 億円となっております。売上は、国内の再生エネルギー関連、国内外の地中線案件の電力ケーブルは前年比で増収です。結果的に増益につながっております。

一方で、国内の建設・電販・鉄道市場の厳しさから産業用電線、コロナによる中国国内の工事遅延による中国の電力ケーブル、このマイナスによる影響が大きくなっている状況です。

営業利益についても、売上と同じく、電力ケーブル、国内関係が進捗は順調です。一方で、売上減の影響から、産業用電線、中国の電力ケーブルが減益でございます。

また、これは 1 クォーターの段階から申し上げておりますけれども、今期の特殊要因として、新規材料採用に伴う一時的な費用の増加が出ておりますので、こちらもマイナス要因になっております。

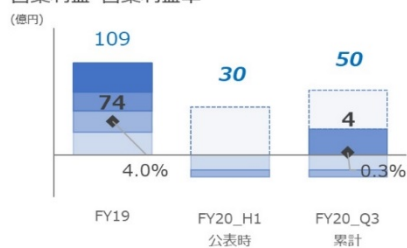
通期につきましては、3Q 累計での減益要因が想定以上に長引いていることからマイナス 10 億円下方修正させていただきます。

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

売上高 (億円)
*海外子会社の決算期の差異により、四半期間の連結売上消去に約100億円の入り繰り(Q3:過少、Q4:過大)が生じております



営業利益・営業利益率 (億円)



■ Q1 ■ Q2 ■ Q3 ■ Q4 ◆ Q3累計営業利益率

青：通期
黒：Q3累計

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

■ Q3累計実績 売上高 前年同期比 ▲292億円
営業利益 前年同期比 ▲70億円

(-) コロナ影響による海外子会社の一時操業停止および再稼働後の稼働率低下、輸送費・代替生産費用の増加。コンテナの高騰、台風影響により輸送費の増加はQ3以降も継続
(-) 受注案件対応投資による償却費の増加

(+) 電池は、海外子会社の生産性改善効果、および国内自動車用電池の需要回復

※ Q3以降自動車部品市場は回復

■ 通期見通し 売上高 H1公表時点比 +50億円
営業利益 H1公表時点比 +20億円

(+) 自動車部品の市場はH1時の想定を上回る回復

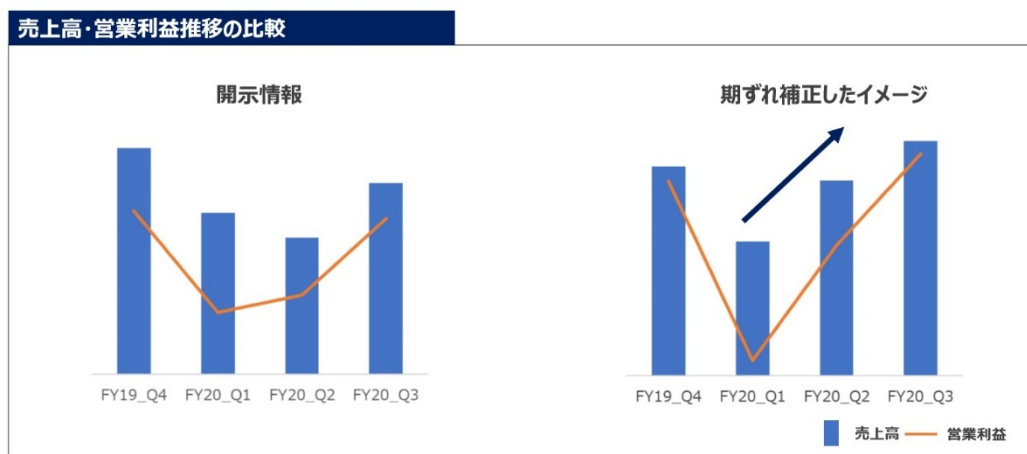
※ 半導体不足による減産、コンテナ高騰の継続懸念はあるも影響は限定的

続いて 17 ページ。自動車部品・電池関係でございます。

こちらは 2Q までのコロナ影響が非常に大きかったことで、Q3 累計でも大幅な減収減益となっておりますけれども、3Q 以降は大きく改善してきております。また、4Q も想定を上回る回復で、年間通しが売上で 50 億、営業利益で 20 億、上方修正しております。

なお、半導体不足による減産影響、コンテナの高騰という輸送費高騰といった懸念材料もございますが、こちらの今年度への影響は限定的と見ております。

- 海外子会社の決算期ずれの影響を補正すると、Q1を底にQ2から回復トレンドに
(自動車部品・電池セグメントは、海外子会社の大半が12月決算のため、開示上は回復時期にずれが生じている)

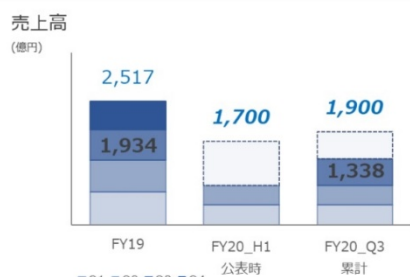


続いて 18 ページ。自動車・電池の補足情報でございます。

当社の自動車・電池関連で多くの海外関係子会社が決算期、12月決算となっていることで、期ずれの影響から、2Q以降の回復状況がわかりにくいというご指摘をいただいております。その期ずれを補正したイメージ図を作成しておりますのでご覧ください。

左が開示ベースの数字となります。これを見ますと、2クォーターの改善度合い、それほど大きくないと見えるんですけども、期ずれを補正したものが右側になります。これで確認いただきますと、2Qからかなり急速に改善方向に向かっている、回復基調になっていることがご認識いただけるかと思っておりますので、ご覧いただければと思います。

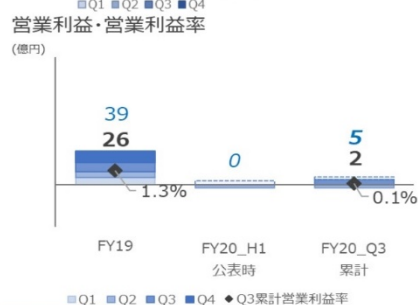
2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)



■ Q3累計実績 売上高 前年同期比 ▲595億円
営業利益 前年同期比 ▲24億円

(-) コロナ影響により自動車、建設・電販関連需要を中心に減収
(-) 事業再編の影響 (銅管事業譲渡・太物巻線事業譲渡)

※ Q3以降車載およびエレクトロニクス関連製品を中心に回復



■ 通期見通し 売上高 H1公表時点比 +200億円
営業利益 H1公表時点比 +5億円

(+) 車載およびエレクトロニクス関連の製品中心に需要回復

■ Q1 ■ Q2 ■ Q3 ■ Q4 ◆ Q3累計営業利益率

青：通期
黒：Q3累計

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

19

続いて 19 ページ。電装エレクトロニクス材料でございます。

Q3 までの累計で、前年比、売上はマイナス 595 億円、営業利益はマイナス 24 億円でございます。売上については、コロナ影響から、自動車関連、建設・電販関連需要が大きく落ち込んでおります。特に、2Q までの大幅な減収が響いております。

また、売上のうち 227 億円、こちらは銅管と太物巻線の連結除外の影響がマイナスに効いております。営業利益にもこの影響でマイナス 7 億円という影響が出ております。ただし、Q3 以降は、車載、エレクトロニクス関連を中心に回復してきている状況で、Q3 単期で見ましても営業は黒字化しております。

通期でも 3Q 以降の傾向が継続して、売上でプラス 200 億円、営業利益でプラス 5 億円と、上方修正をさせていただきます。

3 機能製品



■ Q3累計実績 売上高 前年同期比 ▲41億円
営業利益 前年同期比 ▲17億円

(+) 19Q4より本格回復しているデータセンタ関連製品の需要旺盛

(-) 機能樹脂製品は、コロナ影響による国内民間建築工事の遅れ等

(-) 半導体製造用テープは、上期のスマートフォン向け需要低迷や顧客在庫調整の影響による減収

(-) 銅箔は、車載向け電池用銅箔の需要減少

※ 電池用銅箔の需要はQ3以降回復

■ 通期見通し 売上高 H1公表時点比 +50億円
営業利益 H1公表時点比 +5億円

(+) 自動車・エレクトロニクス関連の特殊線の回復

(+) データセンタ関連需要は堅調

20 ページでございます。機能製品でございます。

こちらは、Q3までの累計実績で、前年同期比で売上がマイナス41億円、営業利益がマイナス17億円となっております。19年度の第4クォーターからデータセンタに関しては本格的に回復しておりますが、これは年度を通して需要が旺盛な状況が続いております。こちらは昨年度に比べて売上也利益も上回っている状況でございます。

一方で、機能樹脂関連の製品はコロナ影響による国内民間工事の遅れの影響が出ております。半導体製造用テープ、こちらは、上期のスマートフォン向け需要の低迷、また顧客在庫の調整の影響を受けておりまして、減収となっております。銅箔に関しましては、車載向けの電池用銅箔の需要が減少しているというところです。ただし、ほかのセグメントと同様、電池用銅箔の需要そのものはQ3以降回復してきております。

通期の見通しですが、売上、プラス50億円、営業利益、プラス5億円を見込んでおります。プラスの要因としては、さっきまでの状況の継続もございまして、自動車・エレクトロニクス関連の特殊線の回復、データセンタ関連の引き続き堅調な動きでプラスを見込んでいるところでございます。

2020年度Q3実績—要約B/S

(単位：億円)			
	FY19Q4末	FY20Q3末	増減
	a	b	b-a
流動資産	3,862	4,070	+208
現金及び預金	544	763	+219
受取手形及び売掛金	1,925	1,782	▲143
たな卸資産計	1,159	1,205	+47
固定資産	4,084	4,026	▲58
有形固定資産	2,542	2,438	▲104
無形固定資産	161	194	+33
投資その他の資産	1,381	1,394	+13
資産合計	7,946	8,096	+150
流動負債	3,196	3,330	+133
固定負債	2,019	2,077	+58
負債合計	5,216	5,407	+191
株主資本	2,567	2,508	▲59
その他の包括利益累計額	▲164	▲122	+42
非支配株主持分	328	303	▲25
純資産合計	2,730	2,689	▲41
負債・純資産合計	7,946	8,096	+150
有利子負債	2,511	2,890	+379
自己資本比率	30.2%	29.5%	▲0.7
NET D/Eレシオ	0.8	0.9	+0.1

現預金
219億円 増加
手元流動性強化

たな卸資産
47億円 増加
将来売上計上予定のプロジェクト・工事件等
自動車関連需要回復にともなう適正在庫確保
(対19Q3末 ▲119億円)
事業譲渡による影響
▲69億円

有形無形固定資産
71億円 減少
設備投資増減の影響
+42億円
事業譲渡による影響
▲81億円
為替影響
▲34億円

NET有利子負債
160億円 増加
(1,967億円→2,127億円)

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

21

続いて 21 ページ、バランスシートでございます。

純資産でございますが、前年度末と比較して 150 億円の増加となっております。内訳として、現預金は、手元流動性確保の観点から 200 億円強増やしております。たな卸資産も、将来売上予定のプロジェクト関連、自動車関連の需要回復や、中国の春節に備えた適正レベルの在庫確保ということで増加しております。しかしながら、4Q にかけては減少させる計画でございます。

固定資産に関しても減少となっておりますが、こちらは設備投資を進めている一方で、銅管、太物巻線の事業譲渡によるマイナスといった影響が大きくなっております。

ここに記載しておりませんが、純資産のところにもその他包括利益の累計額、こちらに関しましては株価の回復もあって有価証券の評価が戻ったという意味で 42 億円プラスとなっております。

あと、一番下段の NET 有利子負債です。こちらは 160 億円の増加になっております。現状、売上回復局面にございます。運転資金の増加もあり、160 億円の増加とご認識いただければと思います。

2020年度Q3実績

設備投資額・減価償却費・研究開発費

FURUKAWA
ELECTRIC

(単位：億円)

	FY19 Q3累計 実績	FY20 Q3累計 実績	前年比 増減	FY20 年間予想
	a	b	b-a	
設備投資額	371	282	▲ 89	470
減価償却費	217	240	+ 23	325
研究開発費	165	155	▲ 10	205

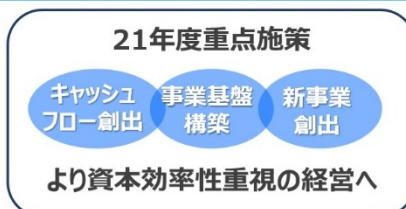
※ 年間予想変更なし

※ 設備投資額については、実施段階でのコストダウン、需要動向・稼働状況等の再精査により抑制を図る

22 ページ、こちらは設備投資、減価償却、研究開発費の年間の予想でございます。

見通しに関しましては変更ございません。一方で、設備投資に関しましては、実施段階でコストダウンを進める、需要動向、稼働状況を見ながら再精査するかたちで進めております。この実態、470 億円という数字よりは低い水準で収める方向で進めている状況でございます。

■ 体質強化と25中計の準備を確実に実行し「力ある会社」に仕上げる



・ 21年度は全セグメントで営業利益増益を見込む

		前提
インフラ	情報通信ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ・光ファイバ・ケーブルのコスト競争力強化 ・北米の地域情報化投資、データセンタ市場関連の需要の取り込み ・産業用レーザ市況の回復
	エネルギーインフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ案件を含む国内地中線需要および海底線案件の取り込み ・産業用電線の市況低迷継続懸念も、機能線（アルミCVケーブル）の拡販
電装 エレクトロニクス	自動車部品・電池	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前の水準に売上回復 ・ワイヤハーネスの新規車種向け順次量産開始（アルミ化比率の向上） ・半導体不足による自動車減産の影響懸念
	電装エレクトロニクス材料	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車・エレクトロニクス市場の回復に伴う需要の取り込み ・高付加価値製品の拡販
機能製品		<ul style="list-style-type: none"> ・堅調な5G・データセンタおよびモバイル機器需要の取り込み ・日韓、米中等貿易摩擦の懸念

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

23

最後のページ、2021年度に向けてということでございます。

2021年度は、2022年度からの25中計に向けて、体質強化と中計に向けての準備を確実に実行し「力ある会社」に仕上げる、ということ掲げております。21年度の重点施策として、キャッシュフローの創出、事業基盤の構築、新事業の創出を進めていくことにより、今より、より資本効率性重視の経営へということを進めてまいります。

セグメント別の状況でございますけれども、営業利益に関しましては21年度、全セグメントで営業利益の増益を見込んでおります。

それぞれの前提でございますけれども、情報通信ソリューションに関しましては、光ファイバ・ケーブルのコスト競争力強化は継続してまいります。さらに、北米の地域情報化投資、データセンタ市場関連の需要をしっかりと取り込んでいくところでございます。さらに、産業用レーザの市況も回復してまいります。ブロードバンド関係も回復してくると思われま。それに対してしっかりとわれわれが市場に供給していく、製品を提供していくことで、しっかりと情報通信ソリューションも改善してまいります。

エネルギーインフラに関しましては、再生エネルギー関連、国内の地中線需要は引き続き堅調でございます。こうした案件をしっかりと取り込んでいくところでございます。あと、生産性改善の投資、あるいは活動も進んでおります。そういったことで売上も増やし、生産効率を上げ、利益も高める活動を続けていきます。

産業用電線に関しましては、市況はなかなか改善を見込むのは難しい状況です。一方、われわれはアルミCVケーブルがかなり浸透してきております。お客様からお声がけをいただくケース、あるいは実際に受注をいただくケースが

かなり増えてきております。今、銅で使われている CV ケーブル、こちらをアルミに置き換えていくことでしっかりシェアを伸ばしていく、量を増やしていくということで黒字化を進めてまいります。

自動車部品・電池に関しましては、来年度、コロナ以前の水準には売上が回復してまいります。ワイヤハーネスの新規車種に関しましても、順次この 3 月から開始されてまいります。それに伴い、アルミ化の比率も向上させていきます。一方で、半導体不足による自動車減産の影響懸念がございます。こちらは引き続きしっかり注視してまいりますと思います。

電装エレクトロニクス材料に関しましては、自動車、エレクトロニクス市場の回復の需要をしっかり取り込むというところは基本の部分でございます。これに加えて、高付加価値製品を拡販していくという基本方針を継続してまいります。

機能製品に関しましては、5G・データセンタ、モバイル機器需要が非常に堅調でございます。こちらの需要をしっかり取り込むことで、貿易摩擦の懸念等々ございますが、伸びる市場に対して確実に対応してまいるということで、来年度以降の営業利益の改善を進めてまいります。

説明は以上となります。